

出来ることと出来ないこと

近頃の事件が痛ましい。

どのような背景があったのか、何があったのか、報道からの情報から読み取るしかない。

しかし、安全で楽しく過ごす場である学校で、先生が関与して起こったことは事実であり、誠に残念なことであり、二度と起こってはいけないことである。

この事件から二つのことを考えた。

「子供理解不足」と「完璧主義」である。

まず、「子供理解不足」について。

様々な環境で生まれ、育ち、様々な心身の状況を持った子供たちが存在する。

教師も多くは「親」であり、我が子でさえ育てるのに苦労し、兄弟姉妹でも性格の違いを実感する。

ましてや人様の子供となればもっとなおのことである。

これを教師の信念や学校の教育方針で杓子定規的に指導することは従来から困難である。

指導方針の枠内で、子供に応じて柔軟に対応することは不可欠である。

教師が指示したことを理解できる子とできない子、成し遂げることができる子とできない子が存在し、この子はどの立ち位置にいる子かを理解し、目標を示し指導することが必要である。

次に「完璧主義」について。

かつて、柔軟に行ってきた取組が、今日では学校全体一致して、同じ指導を行うことが求められる傾向がある。

学校全体が一致した指導を行うことは重要なことである。

しかし、過剰な一生懸命さや熱意が働くと、どの子供にも完璧を求め指導ことも起こり得る。

しっかり指導できず、子供が成果を出させない場合、その先生に対し強い指導が入ることもある。

そしてますます強い指導を行う。

子供は逃げ場がなくなってしまうこともある。まさに悪しきP D C Aサイクルである。

前述の子供理解とも関わるが、多様な子供がいることに配慮が必要である。

さて、子供って、学校教育の中で、完璧になるものなのだろうか。

人の一生に与えられた時間のごく一部が学校生活であり、学校生活外の時間の方が長い。学校以外における成長も十分にあるはずだ。

我々教員は、長く柔い子供の成長を視野に入れて育てる心構えを忘れてはならない。